



がん患者の QOL 維持向上に作業療法ができること  
—自分らしい生き方・「生きがい」を支える—

講師：佐野 哲也

聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科

現在、日本人の 2 人に 1 人は一生のうちに何らかのがんにかかるといわれています。がんは、すべての人にとって身近な病気になっております。がんは、禁煙や食生活の見直し、運動不足の解消などによって、「なりにくくする（予防する）」ことができる病気です。しかし、それらを心がけていても、がんは「ならないようにする」ことはできません（国立がん研究センターHP より）。

がんのリハビリテーションは、どのような病期や病状であっても対象となります。診断された直後から始める「予防的リハビリテーション」、治療と並行して受ける「回復的リハビリテーション」、再発/転移の時期には「維持的リハビリテーション」、症状緩和を中心とした医療が行われるときには「緩和的リハビリテーション」と病期により、それぞれ役割や目的が異なってきます。その中で、作業療法士はがん患者のためにどのような役割を担うことができるのでしょうか。

本講演では、『がん患者の QOL 維持向上に作業療法ができること—自分らしい生き方・「生きがい」を支える—』をテーマに、作業療法士として知っておきたいがんの知識を整理し、病期別での作業療法の治療のポイントや実践、がん患者の QOL 研究を中心に最近の臨床研究の動向を織り交ぜながらお伝えします。そして、最期まで自分らしい生き方・「生きがい」を支える作業療法の力を皆様と一緒に考えてまいります。

## 略歴

氏名：佐野 哲也（さの てつや）

現職：聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科 助教

主な活動 教員

### 【学歴】

2005 年 3 月 新潟医療福祉大学医療技術学部作業療法学科 卒業

2013 年 3 月 聖隷クリストファー大学大学院リハビリテーション科学研究科  
修士課程 修了

2019 年 3 月 新潟医療福祉大学大学院医療福祉学研究科博士課程 修了

### 【職歴】

2005 年 4 月 国立大学法人浜松医科大学医学部附属病院

2017 年 1 月 医療法人弘遠会すずかけヘルスケアホスピタル

2020 年 10 月 聖隷クリストファー大学リハビリテーション学部作業療法学科

#### 【論文・著書】

- Sano T, Izumi R, Ogawa M, Noto S . Influence of Shoulder Joint Function and Postoperative Subjective Symptoms on Health Related QOL of Breast Cancer Patients. Asian Journal of Occupational Therapy 2019;15:1-10.
- 佐野哲也、泉 良太、小川元大、能登真一. 乳がん術後患者の健康関連 QOL 関連因子の解明－肩関節可動域と術後自覚症状の影響について－. 作業療法 2018 ; 37 (3) : 276-284.
- 佐野哲也, 宮前珠子, 中島ともみ. 箸動作利き手交換における効果的練習方法の検討－脳血流動態, 難易度及びパフォーマンスの観点から－リハビリテーション科学ジャーナル 2017;12 : 41-52.

#### 【主な教育活動】

日本作業療法士協会 学術部課題研究推進班  
静岡県作業療法士会 学術部

#### 【主な所属団体】

日本作業療法協会  
静岡県作業療法士会  
QOL/PRO 研究会  
International Society for Quality of Life Research